

と3か月でTOEICの点数が920点に急上昇したのです(さっきも書きましたが高校時代は英語まるでダメでした)。するとその様子をみていた英語スクールのオーナーから「うちで働かないか?」と誘っていた。私は英語コーチとして採用されました。

原稿ではなく自分の言葉で伝えられる、そして人前で話すのも司会業で鍛えられている、好きと学んだことをそのまま場に渡せることが楽しく英語コーチの仕事は充実していました。最初の頃は「なぜやってこなかったの?」という原因論で詰めるタイプ、生徒さんに負荷をかけ結果は出るのですが、逆に相手の心は遠ざかっているような気がしていたのです。ある

時の電話セッションで、地方の受講者が「〇〇〇〇ラーニングを通勤中に聞いたら英語が聞けるようになってきた」と嬉しそうに報告をしてきました。私は反射的に「そんな受け身のやり方で効果が出るはずがない」と思ったのですが、本人は本当に嬉しそうで実際に成績はどんどんあがっていました。その時に私は気づいたのです。正しい学習法は一つではない、その人に合った学習法がある。目から鱗でした。そしてコーチングの学びを深めるなかでアドラー心理学に触れ、「人は目的が立てば自ずと動く」という考えに出会い、関わりかたは目的論に変わっていきました。人の性格や状況に合わせて設計し、承認し、任せる。この大切さと未来志向のやわらかい言葉に置き換えることで行動の温度

が上がることを体感したのです。

「本当に願う目的があれば人は勝手に動きます」これに気づいたわたしはもともとと深掘りをしたくなってきました。た。そもそも主体的な人生を歩んでこなかった私が、いまこうして人生の目的

をみつけ使命に生きることができている。私に関わる人のなにかやりたいという気持ちに寄り添いながらともに人生を創っていきたい。そう思うとワクワクがとまらなくなり独立をしよう!と決めた退職しました。退職後すぐに大手企業から直接仕事の依頼が入ります。入館手続きのフォームに「会社名」の記入欄があり、当時まだ会社を持っていないのに「株式会社インターナルドライブ」と書いている私がいきました。内なる動機Internal Drive。主体的な自分の心の底からやりたいと思える情熱のエンジンを社名にし、1ヶ月で法人化を完了させ経営者としての人生が始まりました。

違うからこそ 大切にしたい 補い合える

英語学習法に関する著書は3冊あります。1冊目は「超コーチング式英会話上達法」タイプ別学習法。山登り型と波乗り型では、効く勉強時間帯も管理の仕方も異なる、という内容。2冊目・3冊目が『英会話筋トレ』『やつぱり英会話は筋トレ』。英会話を「負荷と順序」で組み直した内容です。しかし出版後に感じたのは、私が好きなのは「到達の設計」や「能力開発の分解」そのもので、英語はその器のひとつにすぎないということ。だから軸足をコーチングへ移す決意を固めました。思ある世界を離れる痛みはあったのですが、私のなかの内なるドライブはどちらへ回転していき、心の声にしたがうことにしました。コーチ養成講座では同じことを教えても、うまくなる人とそうでない人がいる

のを見てきました、コーチングを誰でも使えるようにするには、分解と順序が要ります。英会話のときと同じで複雑なスキルは、要素に分解し、順序を決め、単品で練習し、最後に統合する必要がある。英会話筋トレの設計発想を、コーチングのプロセスに移植しました。聞く、問いかける、深掘りする、最後は行動に結びつける―それをカード化したのがコーチングカードTOILAB、人生のナビゲーターともいえる存在。「誰でも今すぐ」。UNOのように直感的でしかし奥が深いこのTOILABで学校・家庭・職場で問いが生み出すコミュニケーションと愛溢れる世界を実現したいのです。

若いころの私は母の華やかさの影で居場所を見失い、その原因をすべて「母のせい」にしていました。でも気づきました。「母と私」2人の人生は善し悪しではなく、違い。私もこの違いを受け入れ母の人生を尊重し自分の人生にも生きがいと自信をもつことができるようになりました。いまではこの「違い」をそのまま愛おしく受け止められます。違うからこそ大切にしたい補い合えるのです。「ロックスターになりたい!」そう言うのと誤解されるかもしれないですが、自己表現を徹底的に追求したいと私は考えています。なぜなら質の高い自己表現は必ず誰かの心に静かな灯をともし他者貢献に直結するからです。コーチとして、講師として、そして一人の人間として、私はこれからも問いを磨き配り続けます。「問い」は人の内側に火を点けるマッチそのもの。配れば配るほど場は明るくなるのです。「問い」はマッチのように人の内側にあたたかな火を点ける。配れば配るほど場はやさしく明るくなります。今日も明日もこれからもずっと、私は「問い」を携えて人と組織の中にある力をそっと起こしていきます。

from IL SARTO

船橋さんに込めたテーマは、 “TOILABのシンボルの佇まい”

TOILABを体験したとき、私の中で何かが静かに整理されていくのを感じました。混沌がクリアになり、未来への「進化と深化」が加速していく―そんなワクワクが止まらなかったのです。その体感を、装いに落とし込む。キーワードは、「絶対的安心感・希望・あたたかみ・つながり」。そしてそこに通底するのは、“寄りそう・共感・自然体”という温度。選んだのは、柔らかくも凛としたブルーのセットアップ。それは、理念を語る言葉よりも雄弁に、「信頼」と「未来」を語る色。理念は、語るものではなく、纏うもの。この一着が、その証です。



6. 船橋さんとの出会いはブックオリティ出版ゼミ
7. 未来を明確にイメージし進んでいく船橋さんの姿に勇気をもらいました!

「問い」は人の 内側に火を点ける マッチそのもの